

きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper



「神秘空間」佐世保 五蔵大池 撮影：相良利博

INDEX

- ごあいさつ 院長 井口 東郎 ①
- 看護部長 退任のご挨拶 ②
- 地域包括ケア病棟（36床）を開設しました。
- 診療活動の現況 ― 肝胆脾外科 ― ③④
- 「認知症サポーター養成講座」開催報告 ⑤
- 市民公開講座開催報告
- 地域医療連携室より ⑥
- 趣味を語る
- 編集後記
- 外来診療担当表 ⑦

ごあいさつ

院長 井口 東郎



医療を取り巻く環境は年々厳しくなっており、迫り来る超高齢化社会に向けた対策が待たなしの状況で、地域の医療需要に基づいた体制整備が国策として動き始めています。佐世保県北医療圏におきましても急性期病床が過剰となっており、今後は急性期病床の削減ならびに回復期病床の増加が求められています。それに向けて昨年4月に診療報酬の改訂が行われ、病院自らが立ち位置を決めねばならなかったのですが、当院は佐世保市から急性期病院としての機能強化を求められていることもあり、今後も7:1体制を堅持して佐世保県北医療圏の基幹病院としてその機能を担ってゆく所存であります。その先には荒波が待ち受けているのですが、それを乗り越え勝ち組となるためには現状に胡座をかいてはだめで、病院は時代の潮流を捉えて常に変革をしてゆかねば生き残りは難しくなります。そのためには将来の変化を見越した明確なビジョンを描いて、そのもとに職員の力を結集することが肝要と考えています。幸い、当院では今年度より医師が増員となりますので、まずはこれまでのハンディー（医師不足）を解消し、戦力面での充実を図ることで、これを突破口として病院の活性化に繋がりたいと思っています。つまり、人材確保にある程度の日処がたちましたので、これからは各診療科の強みを前面に打ち出していただき、他の基幹病院との差別化を図ることで患者獲得に繋がっていただきたいと思っています。ただ、将来ビジョンに則った変革の最中には様々な軋轢も生まれることと思いますが、それを乗り越えねば夢は叶いませんので、全職員の力を結集して夢に向かって邁進して参ります。

当院は開設から100年超の歴史を有する病院で、長きに亘って佐世保市民から慕われてまいりました。私は赴任してまだ1年半ではありますが、市民の方々の思いを日々肌身で感じています。今後も佐世保県北医療圏の基幹病院として最新・最良の医療を佐世保市民に提供してゆくことが病院の責務ですので、医師ならびにメディカルスタッフの充実を図り、その実現に向けた体制構築を目指して参ります。

看護部長 退任のご挨拶

看護部長 片山 由喜子

今年の3月末を持ちまして退職の運びとなりました。在職中は、皆様から多大なご支援・ご指導を頂きまして誠にありがとうございました。

昭和51年に入職し、40年間続けられましたのも皆様の支えのお陰であると心より感謝しております。平成23年、創立百周年の記念すべき年に看護部長に就任し、記念式典では師長・主任とともに「佐世保共済病院 看護婦養成所の歌」を合唱したのを懐かしく思い出しています。6年間という短い期間でしたが、職員の皆様と和気あいあい楽しくお仕事をさせていただいたことが何よりも幸せなことです。

退任にあたり、私が提唱した看護部の合

言葉である「SSK」の精神を後輩達が受け継いでくれることを心より願っています。そして、共済病院のさらなる発展と皆様のご健勝を祈念して退任のご挨拶と致します。

S（スマイル…常に笑顔で）S（積極的に…前向きで）K（患者さんや家族の立場で）



地域包括ケア病棟(36床)を開設しました。

事務部長 畑 宏明

手術や検査等の急性期治療が終了した後に、在宅や施設等への復帰のための医療や支援を行う病棟です。

本来は、一般病棟での急性期治療を経過し、症状が安定したら早期に退院していただくことになっていますが、在宅や施設等での療養に不安のある患者さんに対して、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けて支援できる病棟として、当院では「地域包括ケア病棟」を開設しました。

「地域包括ケア病棟」では、在宅復帰支援計画に基づき、医師や看護師、病棟専従のリハビリテーションスタッフの協力によ

り治療や支援を行っていきます。また、病棟専任の医療ソーシャルワーカーが患者さんの退院支援や退院後のケアについてサポートさせていただきます。

この度「地域包括ケア病棟」を開設することで、患者さんが安心して地域へお戻りいただけるサポートが充実してくるものと思っています。

今後とも地域の皆さまのための病院として発展させるべく努力していく所存ですのでご支援の程よろしくお願いいたします。



肝胆膵外科
部長 丸山 祐一郎

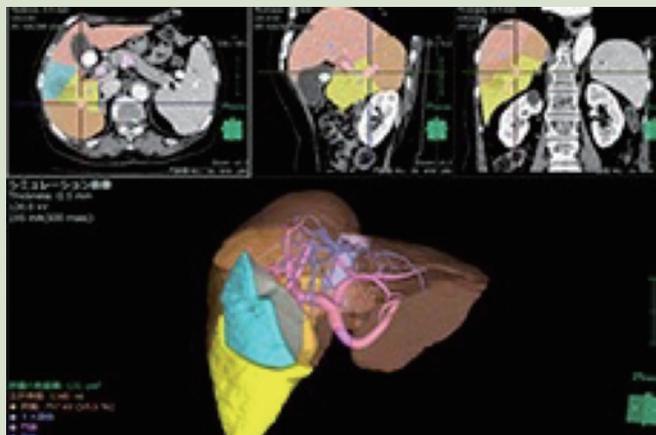
【はじめに】

“おなかが痛い” “目が黄色い” 当科ではこのような症状で来院また紹介された患者様に対して早期治療を行っています。

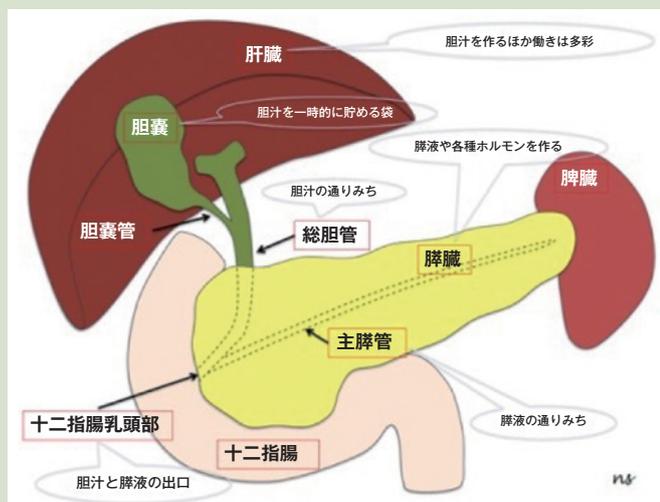
当科の肝胆膵外科診療の現況を報告します。

【主な検査設備】

マルチスライス CT、MRI、ソナゾイドエコー、VINCENT 3次元構築画像システムなどの検査。

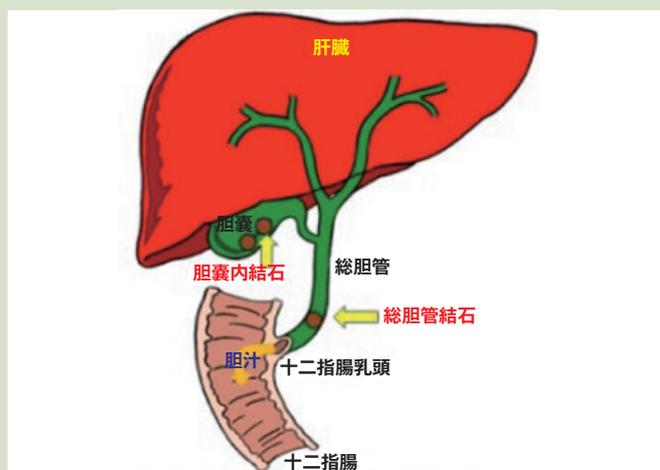


VINCENT を用いた 3D Volumetry 画像構築



【対象疾患】

膵臓癌、胆管癌、胆嚢癌、十二指腸乳頭部癌、肝臓癌、胆石胆嚢炎、総胆管結石などの疾患。



【症状】

腹痛（主に右上腹部）、背部痛、黄疸、褐色尿、白色便、発熱などの症状。

当院の肝胆膵外科 手術件数（5年間）

	H23	H24	H25	H26	H27
胆石症など 良性疾患	79	83	78	103	94
肝切除を伴う 悪性疾患	8	9	8	9	9
膵切除を伴う 悪性疾患	6	9	9	11	8
計	93	101	95	123	111

【正確な診断、確実なドレナージ】

胆石や腫瘍による胆管閉塞による閉塞性黄疸に対する治療は最も得意とする分野です。内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）（図1）や経皮経肝胆道ドレナージ（PTBD）（図2）を用いた黄疸解除のため、胆管ステント治療を迅速に行っています。黄疸を契機にがんが発見されることが、しばしばあります。

悪性疾患に関しては引き続き、早急に治療しています。

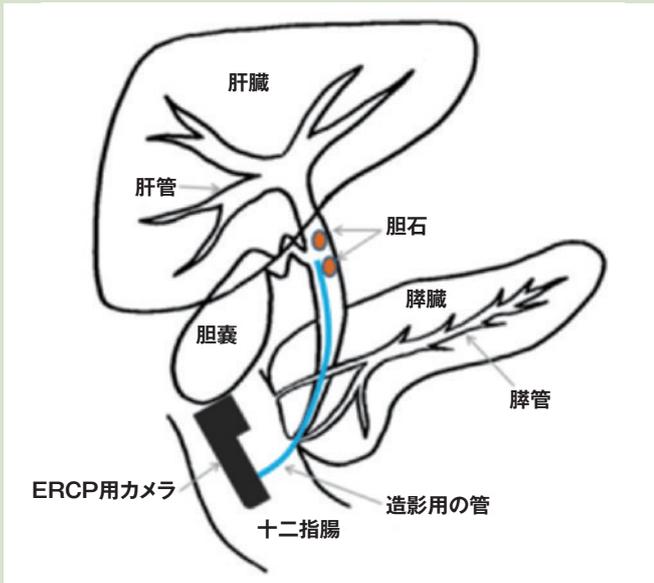


図1 ERCP 切石のイメージ図

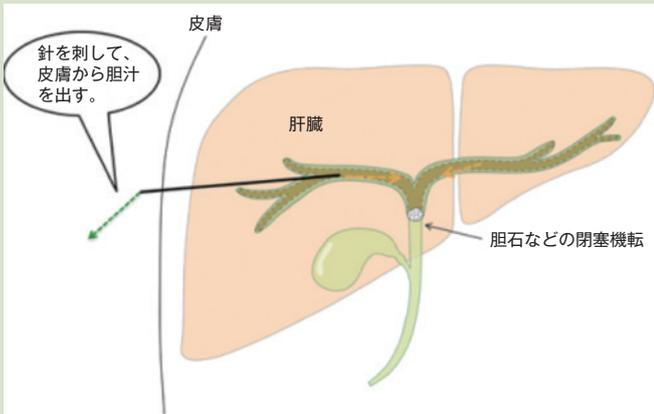


図2 PTBDのイメージ図

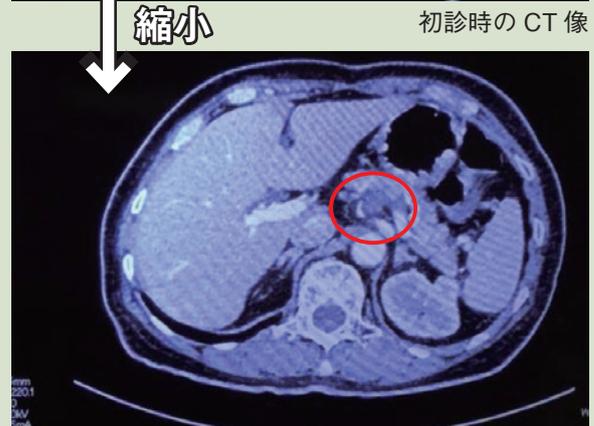
【黄疸原因のひとつ 膵癌について】

膵癌は“21世紀に治らない病気”といわれていました。

しかし、“新規抗がん剤の登場”、“根治性を追求した手術”により、“治る可能性をもった病気”に変わりました。

先日、多剤併用化学療法（FOLFILINOX）を施行し、腫瘍縮小後、膵頭十二指腸切除と結腸切除を一期的に施行した重複癌症例を経験しました。（図3）このように高度進行がんに対しても、術前化学療法を駆使して、効果を確認後、根治術を行っています。その後も補助療法を継続して行っています。

図3 赤丸が腫瘍部位



【おわりに】

黄疸や腹痛の患者さまがおられましたら、予約がなくても、受け入れますので原因にかかわらず、ご連絡（病院代表：0956-22-5136）いただければ幸いです。

さらに検診エコーなどで肝胆膵腫瘍あるいはのう胞性疾患などを疑う患者さまがおられましたら、ぜひご紹介のほどお願いいたします。

当科では“安全第一”“あきらめない治療”をモットーに診療しています。

県北の患者様の幸せにお役にたてると確信します。

認知症サポーター養成講座 開催報告

昨今、社会問題となっている認知症の方は予備軍も含めると全国に800万人！これを支えるのが認知症サポーターです。講座では認知症の様々な症状や正しい対応、例えば“正面に立ち優しく声を掛ける”など特別ではない誰にでもできる方法が示されました。また、認知症の方を地域で支えるには皆さんの理解と気遣いがあればできることも教えていただきました。

今回の受講で認知症への理解を深めた99名（一般参加22名含む）のサポーターは、認知症に苦しまつ方とその家族を優しく見守り支えることで、穏やかに安心して暮らせる街づくりの一助になっていくことでしょう。



講師：認知症キャラバンメイト 山口 元紀 氏

市民公開講座 開催報告

院長 井口 東郎

日本では超高齢化社会が目前に迫っており、これに向けた国家的な取り組みが様々な分野でなされています。今回はそういった時代の流れを捉え、この領域における重鎮のお二方、大内尉義先生（虎ノ門病院院長）と河野茂先生（長崎大学副学長）、をお招きし、「超高齢化社会における医療を考える：現状と課題」と題した市民公開講座を開催致しました。

大内先生は日本老年病学会の前理事長として国の政策決定にも深く関わってこられた方で、この度の講演では超高齢化に伴う諸問題の解決には健康寿命の延伸が重要であり、そのためにはフレイルの中心となるサルコペニアの予防・治療が必要であることを分かり易く解説していただきました。一方、河野先生は現在作成中の肺炎ガイドラインの委員長を務めておられ、肺炎は高齢者の死因として最近では脳卒中を抜いてがん、心筋梗塞に次ぐ第3位となっており、その予防・治療法をご紹介いただきました。今回の講演で印象的だったのは、「終末期肺炎」といった概念をご紹介いただき、こういった病態に陥る前に自分の死に方（延命治療の拒否、他）を残しておくことが大切である、ということをお話されました。

大内・河野両先生は「高齢者の定義変更」及び「肺炎」で奇しくも最近のNHKニュースセンター9時に出演されており、このようにご高名な方が共済病院の市民公開講座でそろってご登壇いただいたことを主催者として誇りに思っています。また、金曜日の18:30からの講演会にも関わらず、121名という多数の方にご参集いただき、このテーマに対する市民の方の関心の高さが窺えました。



大内先生



河野先生

耀光リハビリテーション病院

〒857-0022 佐世保市山手町855-1 TEL 0956-22-2512

病院長 大財 茂 先生



当院は急性期治療後（回復期・慢性期）の入院医療を専門とする病院で、回復期リハビリテーション病棟（222床）、医療療養病棟（53床）、介護療養型医療施設（55床）を有しています。佐世保市の中心街近くの住宅地、山手町に位置し、東側には烏帽子岳の深い緑の樹木、そして西側には佐世保市の中心地と佐世保港（葉港）が見えます。

私たちは「地域住民のために、回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、急性期病院と在宅・施設との架け橋となる」ことを使命と考えています。そのために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を約150名配置、リハビリテーション視点で生活を支える看護師、介護福祉士等と共にチームアプロ



前列左から2番目が大財病院長

チによるリハビリテーションを実践しています。平成26年10月からは日本リハビリテーション医学会研修施設の指定を受け、リハビリテーション専門医の指導により、さらに質の高いリハビリテーションの提供に取り組んでいます。

またロボットスーツ HAL® の活用やリハビリ治療機器に関する多施設共同試験への参加など、最新の知見・技術を積極的に導入しています。

平成29年度には介護療養型医療施設（55床）の医療療養病棟への転換を予定しており、医療の必要性の高い患者さんに対する慢性期治療の充実にも力を入れていきます。

佐世保市（長崎県北地域）は全国に先駆けて超高齢化社会が到来しており、回復期リハビリテーション病棟への期待はますます高まっています。これからもリハビリテーション治療や看護・介護技術を発展させ、今まで以上に市民の皆さんから選ばれる（元気に退院できる）病院になるよう、職員一同努力していきます。

最後になりますが、日頃からご支援いただき、誠にありがとうございます。急性期後の治療が必要な患者さんには、当院で治療を継続させて頂きたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

趣味を語る

中央放射線検査部 早田 浩

ダイビングを始めて4年半になります。クジラの歌が響く海で潜った時は感動を覚えました。

海といえば沖縄のイメージですが魚影の濃さは長崎県も負けてはいません。

九十九島は生物の種類も多く、何より生まれ育った佐世保の海に潜るのは特別に楽しいものです。



編集後記

この春より内科医3名、小児科医1名、麻酔科医1名が増員になりました。これまで以上に地域の医療に貢献できるよう職員一同頑張っています。なお、新任の先生のご紹介はきょうさいだよりの次号に掲載する予定ですので、ご期待ください。

編集委員 森木 達彦



佐世保共済病院 外来診療担当表

平成 29 年 4 月 1 日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓	
	医長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患	
	医員	池田 裕貴	●				●		●				腎臓疾患	
循環器内科	〃	淡浪 由希					●				●		腎臓疾患	
	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患	
	医員	吉村 英恵	●						●				循環器疾患	
	非常勤医	田渕くみ子									●		循環器疾患	
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患	
	〃	溝口ミノリ			●								循環器疾患	
呼吸器内科	〃	熊埜御堂淳									●		循環器疾患	
	〃	眞島 涼平	●	●									循環器疾患	
	非常勤医	柴原 大典									●		呼吸器疾患	
	〃	榎津 愛実					●						呼吸器疾患	
	糖尿病内科	非常勤医	牟田 芳美					▲	▲					▲は第2・4週のみ診察を行います
消化器内科	部長	河野 健次			●		●						肝臓疾患	
	消化器センター長	宿輪 三郎	●								●		消化器内科疾患	
総合内科	部長	丸山 祐二	●										消化器内科疾患	
	部長	小川 隆一			●				●	◆			◆：心療内科の特殊外来	
腫瘍内科	院長	井口 東郎					●		●				膵がん・胆道がん	
	医員	二尾 健太	●				●				●		消化器がん・消化管間質腫瘍(GIST)・乳がん(切除不能、転移性乳がん)・原発不明がん・肉腫(軟部肉腫、骨肉腫、他)	
	〃	篠原 雄大			●				●				消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科	
外科	副院長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆膵外科・一般外科	
	乳腺外科部長	原田 洋			●								消化器外科・乳腺外科・一般外科	
	消化器外科部長	富崎 真一	●	●	●								消化器外科・内視鏡下外科・一般外科	
	肝胆膵外科部長	丸山祐一郎	●						●		●		消化器外科・肝胆膵外科・一般外科	
	医長	高木 克明			●						●		消化器外科・肝胆膵外科・一般外科	
	医員	緒方 傑					●		●		●		一般外科	
	非常勤医	川畑 方博					●						肝胆膵外科・消化器外科・一般外科	
	〃	武田 雄二							▲				呼吸器外科(▲は第1週のみ診察を行います)	
	乳腺外来		高木	●		●		●				●		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい(要予約)
			高木			緒方		原田				原田		
小児科	副院長	岡 尚記			●		●				●		小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般	
	部長	上玉利 彰	●		●			●					小児血液、小児がん、小児一般	
	アレルギーセンター長	合田 裕治	●		●		●		●		●		小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息	
	医長	村田 憲治	●				●				●		小児感染症、小児一般	
	アレルギーセンター副	濱崎 雄平							▲	▲			小児アレルギー疾患(▲は第3週のみ診察を行います)	
	乳児健診	慢性外来	喘息外来				●						火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい 水曜 午後2時から診察開始	
脳神経外科	部長	山川 勇造		■				●				■	脳神経外科一般	
	医長	尾藤 昭次	●		●		●				●		■は午後1時30分から診察開始 午後4時までに受付を行って下さい	
整形外科	顧問	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科	
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科(肩肘手)、足部外科、スポーツ障害	
	医長	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科(肩肘手)、スポーツ障害	
	〃	島山 和之	●		●				●				膝・股関節外科、リウマチ	
	医員	上田 幸輝	●				●				●		膝・肩関節疾患、腫瘍	
	〃	伊東 孝浩	●				●		●				膝・股関節疾患	
	〃	松尾 拓			●		●		●				整形外科一般	
泌尿器科	診療部長	江口 二郎	※		●			●		●			尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染、男性不妊(江口)	
	部長	中村 貴生	※		●			●		●			※の第2・4週(江口)第1・3・5週(中村)が診察を行います	
	医員	大坪亜紗斗	●				●				●			
産婦人科	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患	
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患	
	医員	二尾 愛	■		●			●		●			●：婦人科診療日 ■：産科診療日	
	〃	柿添 絵里	●		●		■				●			
眼科	医長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術	
	医員	大久保美佳	●		●	※	●	※	●		●	※		
		※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)												
耳鼻咽喉科	部長	田浦 政彦	●		●		●		●		●			頭頸部腫瘍、嚥下障害、耳・鼻・咽喉頭などの手術
	医員	友延 恵理	●		●		●		●		●			
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医長	梶原 寿浩												
	医員	近末 智雅												
麻酔科	部長	深野 拓	●		●						●			月～金午前ペイン・緩和ケア外来
	医長	木本 文子			●		●		●					月～金午後は手術麻酔
	医員	豊田 智美												
	非常勤医	別府 幸岐												
ベテリナリ科	部長	境 徹也	●		●		●		●		●			月～金午後は手術麻酔 受診等のお問合せは、直接外来までお電話下さい。
病理診断科	顧問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般	
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	●	※	●	※	●		●	※	●	※		歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、口腔腫瘍、顎関節症
	医員	藤永 貴大	●	※	●	※	●		●	※	●	※		菌性感染症など(※は予約患者のみの診察になります)
	〃	濱田 雄太	●	※	●	※	●		●	※	●	※		
健診センター	健診センター長	佐藤 浩信											※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155	
	医長	原 敬一												